

中高年齢男子の生活時間構造・分析の視点

古元 千鶴子

I 緒 言

生活時間の研究では、第1報においては本大学の学生群を、自宅生、下宿生、寮生の三者について考察した結果、現代の学生の生活時間の実態の特性は、家事的労働時間が過少であり、社会的・文化的な生活時間は増大傾向を示し、個人の選択の自由が拡大して生活の多様性が認められた。¹⁾ 第2報では、その学生の母である主婦群を、専業主婦と就労主婦の生活時間に分けて比較分析した。その結果は現代の主婦の生活時間構造は、生理的生活時間を最少限度に切り詰めて家計を楽にするため、社会的・文化的な生活時間を幾らか犠牲にしても収入生活時間への増大の傾向を示した。²⁾ 引続いて三世同居の祖父母の生活時間量の分析、対比、家族員相互間のかかわり状況の分析検討を行なった。³⁾ 本報では人生の活動期と言われる中高年齢男子の生活時間構造の諸要素を解明するため、生活時間調査を行ない生活時間の変化に伴うエネルギー消費の実態を調べ、生活時間構造の質的量的考察を試みたので報告する。

II 研究対象と方法

1. 調査対象

調査対象は、本大学食物科学生200名のその父親で調査回収後集計に使用した人数は197名であり、40歳代が多く114名、50歳代は83名である。平均身長および体重は、40歳代身長166.1cm、体重61.3kgで、50歳代の身長は165.5cm、体重60.3kgであり、僅かであるが40歳代が背が高く体重が重い。調査対象の家庭状況は表1., 家庭の職業は表2., に示す。

表1. をみると年々核家族化傾向が進み200名中69.5%をしめ、拡大家族は30.5%であり、両親の年代は若く40歳代が大半をしめ、拡大家族では女子の高齢者が男子に比べて多く平均寿命が高い。核家族の子供の平均人数2.2人、拡大家族1.9人である。居住環境は両者の年代とも住宅地が多く、40歳代25.3%、50歳代37.4%であり、次に農山村地域では40歳代18.7%、50歳代13.2%、商業地区は両者の年代とも2.2%であり、工場隣接地区では40歳代1.0%の順である。家庭の父親の職業は会社員が50.0%をしめ、40歳代27.5%、50歳代22.5%、次に公務員は両者の年代ともほぼ同数で全体の12.5%であり、

表1. 調査対象の家庭状況

家族形態	調査対象人員	父					母					祖父		祖母		兄	姉	本人	弟	妹	伯父	伯母	子供平均人数		
		30代	40代	50代	60代	父なし	30代	40代	50代	60代	母なし	70代	80代	60代	70代	80代	20代	30代	20代	10代	学童以上	学童以上		70代	50代
核家族	139名	0	81	52	1	5	1	108	27	0	3	—	—	—	—	—	36	3	33	139	46	49	0	0	2.2
拡大家族	61名	1	25	25	4	6	0	53	6	1	1	20	8	13	24	12	18	0	4	61	20	15	1	1	1.9

表2. 家庭の職業

職業項目	会社員	公務員	自営業	農業	銀行員	団職	体員	建設業	教員	工員	税理士	自由業	医療	林業	無職(父無)	計
父の職業	100	25	22	13	9	6	6	2	2	1	1	1	1	1	11	200
職業項目	専業主婦	会社員	農業	自営業	パートタイム	事務員	公務員	学校調理士	団職	体員	看護婦	施設員	美容師	外交員	無職(母無)	計
母の職業	99	38	17	13	8	6	4	3	3	2	1	1	1	1	4	200

自営業は40歳代8.0%，50歳代3.0%，農業は全体の6.5%で両者の年代とも同数である。母親の職業は、専業主婦が約半数で、主に40歳代の主婦が職場で活躍している。

2. 調査方法

調査方法は被調査記録法とし、調査日は学生夏期休暇中の任意の平日、休日とし、生活時間の分類、生活時間調査表、エネルギー算出方法は、何れも既報のとおりである。¹⁾ なお同一時間帯における重複行動については、単純に二分し第一義的なものに統一した。

Ⅲ 結果と考察

1. 基本統計

(1) 中高年齢男子の生活時間調査結果と考察

中高年齢男子の生活時間調査結果を総括したのが表3-1.，3-2.である。

1) 生理的生活時間における40歳代父親の睡眠時間は、平日7時間54分、休日9時間23分と1時間29分多い。50歳代では40歳代より平日15分、休日21分睡眠を多くとっている。起床時刻は40歳代平日6時間20分、休日は平日より約1時間遅く、50歳代では40歳代より平日10分、休日7分ゆっくり起床している。就寝時刻は40歳代は平日、休日とも22時23分で差はなく早起早寝であるが、50歳代は40歳代より平日約20分、休日1時間ほど遅く就寝している。食事時間は40歳代の父親は平日の平均値1時間13分、休日1時間21分と8分多く、就労主婦の平日、休日の平均値と変わらない時間²⁾であり、50歳代では40歳代より平日5分、休日7分と若干増加気味である。働き盛りと言われる年齢の調査時の食事の状況は、朝食は両者の年代とも米飯食72.8%，パン食27.0%であり、そのうち50歳代のパン食17.4%と多く、昼食は両者の年代とも米飯食90.8%，麺類8.1%，パン食1.2%であり、夕食は昼食と同傾向で米飯食95.0%，その他全て麺類で日本型食生活を好み、家族との食事(朝食、夕食)を、いつも共にしている、時々共にしている家庭が各々47.3%，ほとんど共にしていない家庭が5.4%である関係で食事時間が割合に短時間であるといえる。身の回りでは両者とも平日、休日58分で変わらない。髭剃り、シャワー浴びに時間を費やしていた。受診した父親は少なく健康度は高い。歯の治療、血圧を計る、休日に軽傷程度である。生理的生活時間は、40歳代平日10時間05分、休日11時間42分であり、50歳代は40歳代より平日21分、休日30分多い。

2) 収入生活時間に要する40歳代平日の平均値は、9

時間20分、休日は平日の約5分の1に激減し1時間41分である。50歳代では40歳代より平日約30分、休日は1時間ほど少ない。勤務は40歳代の平日平均値は8時間24分、休日1時間31分、50歳代平日で31分、休日52分と40歳代より少ない。休日の勤務は、工事や、組合会場の打合せ、会合、懇談会、発電機タービン定期点検、商談現地視察等がある。通勤は両者の年代も平日50分内外で、交通網の整備に伴い自家用車の利用で短時間の様相を示している。パートタイムは両者の年代とも0である。内職をする父親は少ない。40歳代より50歳代に農作業が3～8分みられる。

3) 家事的な生活時間は過少である。両者の年代とも平日14分内外、休日1時間30分内外である。その内容では炊事は年代差はなく平日、休日とも1～2分で食事の後片付け、刺身作り、漬物作り等である。洗濯と裁縫(つくりもの)は0である。掃除は40歳代平日、休日とも3分内外で、50歳代の休日14分であり、庭の掃除、片付け、洗車等である。買物は両者とも平日2～3分、休日33分内外と増加し、ウインドウショッピングをかねデパート、マーケットで買物の時間を家庭サービスで費やしている。家庭事務は両者とも平日僅か1分、休日4分内外で家計簿、日記をつける程度である。その他では平日5分、休日になると40歳代41分、50歳代56分増となり、主に日曜大工と公共サービス機関の利用である。育児・教育は0に等しく、母親が主にその任に当たっているのだが、父親も母親と共に協力することが望ましい。

4) 全労働時間は収入的生活時間と家事的な生活時間の和で、平日に勤務する父親は時間に拘束されるため、40歳代は9時間32分、50歳代9時間07分と短かく、休日は勤務がないので、40歳代3時間06分、50歳代2時間33分と減少している。

5) 社会的・文化的生活時間では、平日の平均値は両者とも約4時間25分内外であり、休日9時間13分内外と増大傾向を示し、平日の2倍の時間を要している。その内容をみると、読書では両者とも平日10分、休日25分で主に経済、歴史、推理、趣味に関するもの、気楽に読むものが多い。勉強・研修は40歳代は休日2分で、50歳代平日5分、休日2分である。平日は教員、公務員に研修がみられ、休日には図書館利用しての勉強がある。新聞は両者とも平日30分内外、休日50歳代34分、40歳代42分と多い。新聞でよく読まれているのは、社会面、経済、地方版、スポーツ、テレビ・ラジオの番組と続き、家庭欄は割合に少ない。テレビ・ラジオの視聴時間は、両者の父親とも平日1時間35分内外、休日40歳代2時間56分、

50歳代は3時間9分と多く費している。よく視聴するテレビ番組は、ニュース、天気予報、スポーツ、時代劇、映画、ドラマ、クイズ、ドキュメント、時事放談、特集シリーズ、囲碁、歌の順である。テレビを視聴する時刻は、朝7時より7時30分迄両者とも最も多く、昼は12時より1時迄が多いが、視聴しない父親が両者併せて70.0%あり、夜は7時から10時迄が多い。みる娯楽は平日両者とも0に等しく、休日8分内外である。みる娯楽には野球、相撲、プロレス、バレーボール、落語等がある。する娯楽は両者の年代も平日7分内外、休日40歳代26分、50歳代12分で、みる娯楽より多く、主にドライブ、体操、庭球、ゴルフ、囲碁、釣等が多い。運動・散歩では両者とも平日10分内外、休日40歳代45分、50歳代38分増となり、主にジョギング、柔軟体操、ゴルフの素振り、庭球、犬と散歩がある。裁縫・編物は0である。趣味は両者とも平日18分内外、休日は1時間24分であり父親の主な趣味は園芸、囲碁、将棋、動物の世話、釣、旅行、ゴルフ等が多い。交際は両者とも平日10分内外、休日30分内外で、やや40歳代が多い。社会活動や趣味等で外出する機会は全くない父親が26.1%、隔週1回が22.7%、週1回25%であり、交際時間は少ない。旅行等は職場のグループで、温泉、観光地で年1~2回位である。休息・雑談では、両者とも平日1時間10分内外、休日1時間30分で食事後の休息、団らんを通じて家族との話しあい等、家族とのふれあいが充分出来ることは好ましい時間である。社会的活動では、両者とも平日3分、休日40歳代5分、50歳代13分で中堅層として、町内会40.8%、自治会7.1%、組合22.4%、消費者団体の仕事をもっている。その他は墓参、宗教的行事では両者の父親は平日8分内外、休日は22分内外であった。社会的・文化的な生活時間は、生活行動の多様化と、他の年代と異なった変容がみられた。

(2) 中高年齢男子のエネルギー消費量調査結果と考察
生活時間から、エネルギー消費量を算出すると、表4.に示すとおりである。平日の一日のエネルギー消費は、平日40歳代は2,576Kcal、50歳代2,494Kcalであり、休日40歳代2,334Kcal、50歳代2,108Kcalであった。平日と休日、エネルギー消費の増加傾向を示すのは、収入生活の平日、社会的・文化的な生活の休日、生理的生活の休日、家事的な生活の休日である。家事的な生活の平日は、40歳代416Kcalから13Kcal、50歳代は385Kcalから27Kcal、収入生活では平日1,458Kcalから休日40Kcal、50歳代1,395Kcalから70Kcalに激減している。収入的生活と家事的な生活を加えた全労働のエネルギー消費は平

日40歳代1,471Kcal、50歳代1,422Kcalであり、休日は40歳代456Kcal、50歳代455Kcalと減少する。

1) 生理的生活のための消費エネルギーは平日40歳代685Kcal、50歳代713Kcalであり休日は40歳代121Kcal、50歳代112Kcalと多く、それは睡眠と食事に消費するエネルギーが増すためである。

2) 収入生活のための消費エネルギーは、休日は平日より大方の父親が勤務しないため、消費エネルギーが減少するのは当然で、平日は40歳代40Kcal、50歳代70Kcalと減少する。

3) 家事的な生活のための消費エネルギーは、平日より休日の40歳代403Kcal、50歳代358Kcal消費増であった。最も上り幅の大なるのは買物と掃除である。

4) 全労働では、平日40歳代1,015Kcal、50歳代967Kcal休日より多く消費している。就労主婦と比較すると、平日40歳代83Kcal、50歳代132Kcal、休日40歳代724Kcal、50歳代725Kcalで消費量は減少となる。²⁾ 就労主婦は全労働では家事的な労働が中高年齢男子より消費量が多い。

5) 社会的・文化的な生活のための消費エネルギーは、平日40歳代420Kcal、休日652Kcalの増で、1,072Kcalであり、50歳代平日358Kcalで休日は470Kcal増で828Kcalとなり、休日は何れも増加傾向を示した。父親が休養を兼ね余暇としてあげられるテレビ・ラジオの視聴では、40歳代平日136Kcal、50歳代114Kcalで、休日40歳代は平日より100Kcal増で236Kcalとなり50歳代は平日125Kcal増で239Kcalとエネルギーを多く消費する。休息・雑談では平日40歳代113Kcal、50歳代86Kcalで休日は40歳代29Kcal増で142Kcal、50歳代31Kcal増で117Kcalであり、休日は平日に比して家庭外の社会活動より、家庭内での余暇的休養と家庭での行動の活動エネルギー消費増が、主婦同様認められた。²⁾

2. 40歳代と50歳代の比較

生活時間分類の各項目ごとに表3-1., 3-2., のデータで、40歳代と50歳代の生活時間を平均対の多重比較をライアン法で比較した。睡眠では休日、平日とも40歳代と50歳代間に有意の差はなく、40歳代と50歳代ともに平日と休日に差があり、休日は休日らしく過している。40歳代平日の睡眠時間が最も短く、50歳代休日が最も長く、その差は110分もある。食事で40歳代平日と50歳代休日の差は15分であるが5%の危険率で平均値に差がみられ、その他に違いがみられない。身の回り、医療には年代間、平日、休日に差がない。従って生理的生活時間

表3-1 中高年齢男子(40歳)の生活時間調査結果

1984年 8月

曜 日		平 日			休 日		
		平 均 値 (分)	標 準 偏 差 (分)	変 動 係 数 (%)	平 均 値 (分)	標 準 偏 差 (分)	変 動 係 数 (%)
生理的 生活時間	睡眠	474	57	12	563	110	20
	食事	73	27	37	81	31	38
	身の回り	58	21	36	55	22	40
	医療	0	0	0	3	14	467
	小計	605	68	11	702	116	17
収入的 生活時間	勤務	504	105	21	91	185	203
	パートタイム	0	0	0	0	0	0
	通勤	54	53	98	10	24	240
	内職	2	19	950	0	0	0
小計 (1)	560	114	204	101	193	191	
家事的 生活時間	炊事	2	9	450	2	6	300
	洗濯	0	0	0	0	0	0
	掃除	2	11	550	5	17	340
	裁縫(つくるいもの)	0	0	0	0	0	0
	買物	2	12	600	31	59	190
	家庭事務	1	6	600	6	45	750
	その他	5	14	250	41	84	205
	育児・教育	0	0	0	0	0	0
小計 (2)	12	27	225	85	129	152	
全労働時間 (1)+(2)		572	109	19	186	203	23
社会的・ 文化的 生活時間	読書	10	28	250	25	54	216
	研修・勉強	0	0	0	2	12	600
	新聞	28	21	75	42	36	86
	テレビ・ラジオ	98	57	58	176	119	68
	みる娯楽	0	0	0	6	28	467
	する娯楽	4	17	425	26	86	331
	運動・散歩	12	26	208	45	101	224
	裁縫・編物	0	0	0	0	0	0
	趣味	19	44	232	85	155	182
	交際	10	34	340	35	70	200
	休息・雑談	72	48	67	84	64	76
	社会的活動	3	21	700	5	78	560
その他	7	20	286	21	58	276	
小計	263	101	38	552	200	38	
合 計		1440			1440		
調査対象人数		114			70		
起床時刻		6:20			7:19		
就寝時刻		22:23			22:24		

表3-2 中高年齢男子(50歳)の生活時間調査結果

1984年 8月

曜 日 生活時間内容			平 日			休 日		
			平 均 値 (分)	標 準 偏 差 (分)	変 動 係 数 (%)	平 均 値 (分)	標 準 偏 差 (分)	変 動 係 数 (%)
生理的 生活時間	睡 眠	489	75	15	584	107	18	
	食 事	78	27	34	88	28	32	
	身 の 回 り	58	19	33	58	26	45	
	医 療	1	7	700	2	11	550	
	小 計	626	77	12	732	110	15	
収入的 生活時間	勤 務	473	151	32	39	125	321	
	パ ー ト タ イ ム	0	0	0	0	0	0	
	通 勤	50	50	100	1	3	300	
	内 職	8	32	400	3	17	567	
	小 計 (1)	531	163	31	43	125	291	
家事 的 生 活 時 間	炊 事	1	3	300	2	14	700	
	洗 濯	0	0	0	0	0	0	
	掃 除	4	21	525	14	32	229	
	裁 縫 (つくりもの)	0	0	0	0	0	0	
	買 物	3	21	700	35	68	194	
	家 庭 事 務	1	6	600	2	8	700	
	そ の 他	6	17	283	56	70	161	
	育 児 ・ 教 育	1	4	400	1	6	600	
	小 計 (2)	16	35	219	110	115	105	
全労働時間 (1)+(2)		547	151	28	153	158	103	
社 会 的 ・ 文 化 的 生 活 時 間	読 書	10	25	250	26	55	212	
	研 修 ・ 勉 強	5	37	740	2	14	700	
	新 聞	31	24	77	34	23	68	
	テ レ ビ ・ ラ ジ オ	90	67	74	189	115	61	
	み る 娯 楽	1	6	600	11	36	327	
	す る 娯 楽	10	35	350	12	52	433	
	運 動 ・ 散 歩	10	19	190	38	92	242	
	裁 縫 ・ 編 物	0	0	0	0	0	0	
	趣 味	17	34	201	84	131	156	
	交 際	13	41	315	27	56	207	
	休 息 ・ 雑 談	68	51	76	96	79	82	
社 会 的 活 動	3	17	567	13	37	300		
そ の 他	9	19	211	23	59	257		
	小 計	267	133	50	555	160	29	
合 計		1440			1440			
調査対象人数		83			50			
起床時刻		6 : 30			7 : 26			
就寝時刻		22 : 45			23 : 27			

表4. 中高年齢男子(40歳代, 50歳代)のエネルギー消費量調査結果

1984年 8月

年 代		40 歳 代				50 歳 代			
		平 日		休 日		平 日		休 日	
		エ 消 平	ネ ル 費 均	ギ ー 量 値	エ 消 平	ネ ル 費 均	ギ ー 量 値	エ 消 平	ネ ル 費 均
生 理 的 生 活	睡 眠	464.4		570.0		479.4		592.7	
	食 事	119.8		134.3		124.6		127.2	
	身 の 回 り	101.2		101.9		105.2		98.2	
	医 療	0.0		0.0		4.2		6.6	
	小 計	685.4		806.2		713.4		824.7	
収 入 的 生 活	勤 務	1319.6		9.1		1201.2		17.9	
	パ ー ト タ イ ム	0.0		0.0		0.0		0.0	
	通 勤	123.3		31.3		154.8		52.4	
	内 職	14.8		0.0		39.0		0.0	
小 計 (1)	1457.7		40.4		1395.0		70.3		
家 事 的 生 活	炊 事	2.6		79.1		0.7		91.1	
	洗 濯	0.0		0.0		0.0		0.0	
	掃 除	2.9		181.1		17.9		154.7	
	裁 縫 (つ くら い も の)	0.0		0.0		0.0		0.0	
	買 物	0.7		122.3		1.2		89.4	
	家 庭 事 務	1.2		15.4		0.0		0.0	
	そ の 他	5.6		17.8		7.6		49.4	
育 児 ・ 教 育	0.0		0.0		0.0		0.0		
小 計 (2)	13.0		415.7		27.4		384.6		
全労働時間 (1)+(2)		1470.7		456.1		1422.4		454.9	
社 会 的 ・ 文 化 的 生 活	読 書	11.9		27.3		9.1		29.0	
	研 修 ・ 勉 強	0.0		2.6		0.0		5.8	
	新 聞	42.1		49.0		54.1		40.5	
	テ レ ビ ・ ラ ジ オ	136.0		236.1		114.4		238.9	
	み る 娯 楽	0.0		11.4		1.3		6.2	
	す る 娯 楽	2.9		54.8		5.0		62.2	
	運 動 ・ 散 歩	55.8		254.7		24.6		119.3	
	裁 縫 ・ 編 物	0.0		0.0		0.0		0.0	
	趣 味	29.8		189.0		17.4		99.0	
	交 際	10.7		44.4		30.7		11.6	
	休 息 ・ 雑 談	113.2		142.1		85.7		117.4	
社 会 的 活 動	5.1		6.5		2.7		29.2		
そ の 他	12.0		54.0		12.9		69.0		
小 計	419.5		1071.9		357.9		828.1		
合 計		2575.6		2334.2		2493.7		2107.7	
調 査 対 象 人 数		114		70		83		50	

単位 (kcal)

は年代間に差はないものも平日と休日は違った過し方で、休日の役割は果されている。収入的生活時間には有意の差がみられない。家事的な生活時間では、炊事に差はなく、掃除では40歳代に平日と休日の差がないが、50歳代に平日と休日に差があったが、データの偏り即ち掃除する者の数が少ないので、一般化して言うには無理である。買物は年代差はないが休日にやはり買物に出かけている。家事的な生活時間は、男子の関与が極めて少なく40歳代と50歳代の一部の項目で差が出かけているが、全体的にみて差がみられない。社会的・文化的生活時間では、40歳代の平日と休日に、新聞、テレビ・ラジオ、する娯楽、運動・散歩、趣味、交際に差がみられ、休息・雑談、社会的活動、その他に差がなく、50歳代では新聞に平日と休日に差がなく、みる娯楽に差がみられる。社会的・文化的生活

時間も平日と休日に差はあっても、40歳代と50歳代の休日の過し方に大きな違いはみられない。

3. 分析の視点

1) 相関分析

生活時間内容は全部で29変数であるが、その中で男子に日常的なものの10変数を選択して相互の相関をみたのが表5. である。睡眠は平日で勤務と有意の負の相関を示すが、休日では勤務と運動・散歩、趣味、と負の相関を示す。食事とは平日において通勤と負の相関があるが休日には有意でない。身の回りは平日で他と有意の相関がみられないが、休日では通勤と、新聞、運動・散歩と有意の負の相関がある。テレビ・ラジオは平日、勤務、通勤、新聞との負の相関がみられるが、休日は例外的な休

表5. 相関行列

	睡眠	食事	身の回り	勤務	通勤	新聞	テレビ ラジオ	運動散歩	趣味	休息雑談
睡眠	1.00	.04	.03	-.26**	-.12	-.05	.16	-.09	-.01	-.15
食事	-.07	1.00	.11	-.17	-.22*	.08	.07	.07	-.11	.07
身の回り	.03	.02	1.00	-.19	.08	-.01	-.21	.08	.10	.01
勤務	-.30**	.02	.06	1.00	-.06	-.16	-.21*	-.07	-.01	-.15
通勤	-.14	-.02	.30**	.28*	1.00	.02	-.33**	.03	.02	-.11
新聞	.09	.07	-.26*	-.12	-.25*	1.00	-.24*	-.02	-.12	.05
テレビ・ラジオ	.04	-.13	-.12	-.32**	-.22	.08	1.00	-.06	-.11	-.10
運動・散歩	-.28*	.04	.32**	-.12	.20	-.11	-.17	1.00	.00	-.08
趣味	-.24*	-.08	-.01	-.24*	-.12	-.03	-.02	-.03	1.00	-.14
休息・雑談	.22	-.16	.20	-.31**	.01	.02	-.15	.12	-.06	1.00

対角線の上は40歳代の平日、下は休日

* p < 0.05 ** p < .01

日出勤とのみ有意である。

2) 主成分分析

主成分分析は多変量解析法のうちで最も基本的でよく用いられる手法の一つで、互いに相関のある多種類の特性値のもつ情報をそこうことなく、互いに無相関な少数個の総合特性値に要約し、複雑な現象を解することに役立つ方法である。

家庭管理学のなかで生活時間は少なくとも29変数に及び平均値で分析するには情報の損出が多過ぎるので、更に時間構造を明らかにするには多変量解析を縦横に駆使する必要がある。近年パーソナルコンピュータの発達により、研究室内で詳細且厳密な分析が可能となった。そこで本研究でも、生活時間調査の分析にPC9801を用いて多変量解析を適用した。

40歳代平日の生活時間29変数中、育児・教育とパートタイム、裁縫・編物は従事者がいないので除いて26変数の相関行列から主成分分析を行ったのが表6. である。固有値が1以上の11主成分が抽出されたが、累積寄与は68%であった。しかし第1主成分で寄与率が12%、第2主成分で9%と小さく、第1主成分と第2主成分で説明出来るのは従事者の少ない家事労働と時間の大きさであるが、他の成分の解釈が困難である。そこで、男子の日常的な10変数に主成分分析を改めて行ったのが表7. である。

固有値の規準を1以上とすると5つの主成分までで64.9%の累積寄与率を示す。次に40歳代の生活時間の第1主成分と第2主成分の因子負荷量を示したものが図1である。

表6. 40歳代男子平日生活時間の固有値・固有ベクトル・寄与率・累積寄与率

主成分 分類項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
睡眠	-0.23	0.06	-0.18	0.01	-0.17	0.13	0.15	-0.52	0.12	-0.01	-0.15
食事	-0.06	-0.07	-0.43	0.12	-0.06	0.19	-0.02	0.18	-0.32	-0.11	-0.08
身の回り	-0.08	-0.16	-0.05	0.35	-0.41	-0.16	0.03	0.09	-0.07	0.22	0.04
医療	-0.01	-0.10	-0.02	0.21	-0.15	-0.12	0.34	-0.26	0.13	-0.50	0.20
勤務	0.04	-0.15	0.24	-0.48	0.05	-0.29	-0.11	0.10	-0.20	-0.12	0.15
通勤	0.03	-0.20	0.38	0.17	-0.14	0.24	-0.01	0.12	0.23	-0.06	-0.01
内職	0.02	-0.01	0.00	0.14	0.32	-0.14	-0.20	-0.16	0.52	0.05	-0.03
炊事	-0.08	0.51	0.21	0.18	0.00	-0.16	0.02	0.09	-0.11	-0.06	-0.04
洗濯	-0.08	0.48	0.27	0.16	-0.06	-0.19	0.02	0.03	-0.08	-0.07	-0.04
掃除	-0.06	0.34	0.12	-0.05	-0.15	-0.04	-0.03	0.03	0.18	-0.08	0.13
裁縫(縫くろい)	0.52	0.11	-0.12	-0.03	-0.06	-0.17	0.03	-0.05	-0.01	0.02	-0.03
買物	-0.02	0.02	-0.02	0.41	-0.13	-0.08	-0.18	0.09	-0.25	0.19	-0.26
家庭事務	0.01	0.02	-0.05	0.13	0.20	0.11	0.12	-0.04	-0.11	0.47	0.67
その他	-0.06	0.18	-0.26	-0.06	-0.29	0.26	-0.27	0.18	0.27	-0.19	0.12
読書	0.32	0.12	-0.29	-0.06	-0.10	0.03	-0.07	0.11	0.26	0.01	-0.08
研修・勉強	0.01	-0.06	0.03	0.02	0.14	-0.05	0.29	0.47	0.13	0.03	-0.32
新聞	0.10	-0.03	-0.03	0.41	0.27	-0.16	-0.18	-0.20	0.04	0.01	0.04
テレビ・ラジオ	-0.09	0.42	-0.22	-0.18	0.08	0.22	0.16	-0.01	-0.09	0.13	0.05
みる娯楽	0.16	-0.04	0.35	0.11	0.04	0.54	-0.10	-0.06	-0.09	-0.11	-0.06
する娯楽	-0.05	-0.03	-0.07	-0.11	0.14	-0.07	-0.06	-0.37	-0.30	-0.02	-0.35
運動・散歩	0.08	-0.11	-0.03	0.12	-0.05	-0.07	0.56	0.11	-0.07	-0.18	0.11
趣味	0.01	-0.09	0.08	-0.14	-0.30	-0.10	0.12	-0.04	0.25	0.50	-0.18
交際	0.47	0.05	0.11	0.09	0.01	0.31	-0.00	-0.08	-0.15	-0.00	-0.02
休息・雑談	-0.08	-0.10	-0.23	0.15	0.23	-0.15	-0.27	0.26	0.01	-0.23	0.12
社会的活動	0.52	0.10	-0.11	-0.01	-0.07	-0.19	0.04	-0.07	-0.00	-0.02	-0.00
その他	-0.03	0.10	-0.07	0.06	0.46	0.15	0.35	0.11	0.16	0.07	-0.22
固有値	3.02	2.33	1.83	1.65	1.53	1.45	1.37	1.24	1.18	1.07	1.03
寄与率	0.12	0.09	0.07	0.06	0.06	0.06	0.05	0.05	0.05	0.04	0.04
累積寄与率	0.12	0.21	0.28	0.34	0.40	0.45	0.50	0.55	0.60	0.64	0.68

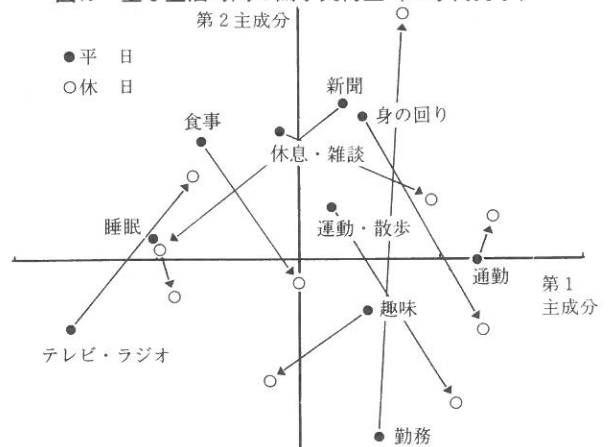
平日と休日を同一平面で比較してみると、生理的生活時間、家事的な生活時間、収入的生活時間、社会的・文人的生活時間が各々クラスターをなし、平日と休日とも分ける軸があり、また個人的な生活と社会的な生活時間に分ける軸をみる事が出来る。40歳代の生活時間の固有ベクトルをみると、第3主成分では、睡眠、身の回り、趣味の固有ベクトルが正で大きく、勤務と休息が負で大き

く、労働と余暇の成分、第4成分では食事と運動・散歩が正で大きく、睡眠、通勤、新聞が負であるので、ゆとりと多忙の成分、第5成分では運動・散歩が正で大きく、身の回り、趣味、休息・雑談が負で大きいので、レクリエーションの成分で能動的なもの受動的なものがみられる。

表7. 40歳代生活時間の主成分分析の固有値

主成分	平日			休日		
	固有値	寄与率	累積寄与率	固有値	寄与率	累積寄与率
1	1.613	16.188	16.188	2.022	20.223	20.223
2	1.402	14.020	30.208	1.447	14.468	34.691
3	1.335	13.349	43.557	1.288	12.875	47.566
4	1.127	11.273	54.830	1.128	11.279	58.845
5	1.002	10.020	64.850	1.094	10.942	69.787
6	0.978	9.779	74.629	0.927	9.267	79.054
7	0.866	8.664	83.292	0.767	7.675	86.729
8	0.700	6.999	90.292	0.681	6.809	93.537
9	0.658	6.585	96.876	0.406	4.055	97.592
10	0.312	3.124	100.000	0.241	2.408	100.000

図1. 主な生活時間の因子負荷量(40才代男子)



IV. 要 約

高齢化社会において、家庭あるいは家族の果す役割が大きいことは論をまたない。そして、一家の家計収入確保の担い手であり、また中高年齢男子（父親）の生活時間構造を明確にすることは、社会的にも家庭的にも必須のことである。そこで生活時間調査を行って複雑なデータに多変量解析を適用して、その構造分析を試みた。

1) 40歳代と50歳代を比較すると、生活時間は基本的には違いがないものの、細部では全労働時間の短縮への移行がみられた。

2) 家事的な生活時間では、男女差が如実に現われ、男女の役割分担の固定化が認められた。

3) 社会的・文化的な生活時間では、休日は平日より2.1倍の時間量をしめし、中高年齢の父親は休息・休養時間と余暇時間が多く特徴としてあげられ、外出余暇時間より居室余暇時間を多く過ごし、また生活の多様性が認められた。

4) エネルギー消費において休日は平日に比べて家庭外の社会活動より家庭内での余暇的休養と家庭での行動の活動エネルギー消費増が主婦同様認められた。

5) 多変量解析を適用して、労働時間と余暇、家庭内活動と社会的・文化的活動の成分をとり出し、平日と休日の生活時間構造を示した。

終りに本研究について、データの調査に協力いただいた仙田洋子助教授に感謝いたします。

文 献

- 1) 古元千鶴子・吉田繁子：岡山県立短期大学研究紀要，26，16～29，（1982）
- 2) 古元千鶴子・吉田繁子：岡山県立短期大学研究紀要，27，17～27，（1983）
- 3) 古元千鶴子他：「高齢者の生活問題」P. 11～26，家政教育社（1984）

（昭和60年3月30日受理）